胸像の横に設置され、除幕される説明板＝袋井市月見の里学遊館で

袋井出身の水利技師

鳥居信平の功績 案内板に

戦前の台湾にダム建設

戦前の台湾に地下ダムを造り、住民の生活向上に貢献した袋井市上山梨出身の水利技師、鳥居信平（一八八三～一九四六年）の功績を広く知ってもらおうと、市月見の里学遊館の敷地内に立つ胸像の横に顕彰説明板が設置され、関係者が除幕した。

鳥居信平は大正時代、台湾の屏東市にダムを造り、農業用水と飲料水の安定供給を可能にした。胸像は以前、台湾の篤志家から贈られ、同館敷地内に飾られた。

説明板は地元の三育会（鳥居信丈会長）が作製し、鳥居信平の略歴や功績、胸像の由来などを解説している。

横井村主実行委員長は「胸像だけでは分かりにくいので、説明板を作って、功績を広く顕彰したいと考えた。今後は資料をもっと集め、パンフレットなども作りたい」と語った。

（河野貴子）